



テレマカシー

vol. **17**
2008.7.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

暑中お見舞い
申し上げます

おかげ様で、2008年6月、
重症障がい児者レスパイトケア施設「うりずん」が
オープンいたしました。

レスパイトとは、「ほっとひと息」という意味です。
障がいをもつ人を臨時でお預かりすることにより、
ご家族にゆとりの時間が生まれます。

大切なお子様を安心してお預かりできるよう、
スタッフ一同精進してゆきたいと思ひます。

多くの皆様のご支援に感謝いたします。
今後ともよろしくお預かり申し上げます。

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦



ひばり畑 スリムになって、再スタート!

うりずんの開設に伴い、畑を減らして屋根つき降車場と、スタッフの駐車場を整備する必要がありました。「手入れができないなら、やめてはどうか」という意見もありましたが、作物とのふれあいの時間はなん



3分の1に縮小して再スタートした「ひばり畑」(2008年7月)

としても確保したかったのです。

ひばり畑は、耕作面積を3分の1に縮小して再スタートしました。畝(うね)は5本あり、手前からネギ、夏だいこん、小松菜・にんじん、にがうり・なす・ミニトマト、そして一番奥には、いんげん豆・ズッキーニ・さといもが育っています。苗や種を下さる方々、畑の指導をして下さっている方に感謝しつつ、手の空いた日には、麦わら帽子をかぶって畑に出ています。

何でも大きすぎると、目が届きません。畑は「ほどほどに」小さいほうが良いと実感しています。



にがうり。「ゴーヤちゃんぶる」が楽しみです



重症障がい児者レスパイトケア施設 「うりずん」がオープンしました!



2007年度に当院が行ってきた研究事業がきっかけとなり、宇都宮市の新規事業「重症障がい児者医療的ケア支援事業」が始まりました。この事業では、医療的ケア(人工呼吸器や、たんの吸引、経管栄養、導尿に限る)が必要な障がい児者の日中一時支援を医療機関が行う場合、割増料金の設定がなされ、当院のような個人の診療所も受託できることになりました(詳しくはテレマカシー16号参照)。

2008年4月に新規事業が制度化されたのを受けて、ひばりクリニック内の改修を行い、6月には市から委託を受ける契約を交わしました。6月7日に開かれた内覧会には、人工呼吸器をつけたお子様とご家族、宇都宮市障がい福祉課、栃木県障がい福祉課の皆様や参議院議員の谷博之様、T-プロジェクト時代からお世話になっている皆様など多くの方がいらしてくださいました。当日は三線の演奏会もあり、うりずんは沖

縄ムードにあふれました。皆様には木板にメッセージを書いていたいただきました。この木板はうりずんの玄関に掲げてあります。

うりずんの開所に際しましては多くの皆様から、お花、絵画などお祝いの品々や多額のご寄付をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

■『うりずん』の由来

うりずんとは、「潤う」と水が土にしみとおる「染む」からなる言葉で、沖縄の若夏をあらわします。さわやかな南風が吹き、野山は緑にあふれます。うりずんのようにやさしい風に包まれて、ゆったりとした時間を過ごしていただきたいという思いから名付けました。

■うりずんのロゴ

ロゴはこの人しかいない!と、クリニックのロゴも作ってくださった吉新春久さんをお願いしました。



▲オープン前のうりずん たたみと青空がポイント



▲屋根つき降車場
▲スロープとリフトを完備した入口

うりずん日記

うりずん サービス管理責任者
看護師 三上 綾子

うりずんが開所して早や1カ月が経ちました。あっ!という間の1カ月でもあり、まだ1カ月??と複雑な心境です。昨年の研究事業から新規事業への移行を前任者の内納看護師より引継ぎ、数か月間で改修工事・必要な書類作成等の準備を急ピッチで進めてきたこともそう思わせる一因かもしれません。

事業開始に向け、こだわった点があります。

- ① ご利用者・ご家族にとって快適かつ和む空気が漂う空間
- ② 個々のニーズに対応できる安全と安心を提供できる空間
- ③ レスパイト施設として必要な時に利用できる受入れ体制作り
- ④ ご利用時間内を安全に楽しく過ごす工夫などです。

ハード面である①②はすでに皆様より天井の青空と居室の空間・スタッフによる装飾品等で、納得や満足のいくお言葉を頂戴することができ、胸をひと撫でしています。

③は定員3名の中2名を先行予約で、1名を緊急のご利用に残しています。先行予約はご利用月の1カ月前に1月分の予約希望をまとめて受付し、調整後にご利用決定をしています。空き状況により、ご利用希望日の1週間前より再予約を受付しています。現在のところ、この予約方法で不都合はなさそうです。



▲うりずん初のダブルお預かり
(たけるくん・なつみさん)

④のソフト面はキーボード演奏や歌、絵本や紙芝居の読み聞かせ、体のマッサージや軽い動きを取り入れた体操などで、ご利用者はとても良い表情でその時間を過ごされています。

うりずんは医療的ケアが必要な方々がご利用になる施設です。たんの吸引やお食事(経



▲たけるくんとボランティアの黒崎さん



▲たけるくんとボランティアの早川さん

管栄養)など様々な処置やケアが定時や臨時に必要となります。そのような状況下で看護師である私が個人的に最も配慮することは、医療や看護が前面に出るのではなく、生活や活動の時間を大切に、ご利用者が快適にかつ楽しく過ごせるために、

『全体的には「うりずん」の「う」と「り」を表したデザインです。「うりずん」の太陽(レッド)、空(スカイブルー)、新緑(グリーン)、海(マリンプルー)がデイゴの花(沖縄県の県花)をダイナミックかつ優しくサポートしています。そして、ウェーブ形状は“波”と“風”で、アクティブで限らない発展性を表しています。』

吉新春久さん、素敵なおロゴマーク、ありがとうございました！



▲チームうりずんの三線演奏



▲「うりずんの風」を歌う師匠の大島さん(右)と高橋(やや緊張)

▶スタッフで記念撮影
(左から高橋事務・吉澤保育士・三上看護師・高橋医師・大房事務・丑久保事務)



見守り・寄り添うというスタイルでケアをするということです。ケアをする義務はありますが、楽しみを奪ってでもケアをする権利は緊急性を除いて、無いと思うからです。

看護師である私が一番安全に配慮できれば、ご利用者もスタッフも安心して楽しいひと時を過ごせます。縁の下の力持ち……そんな看護スタイルを大切に、うりずんはご利用者を支えます。

現在登録ご利用者は5名となり、ボランティアの皆様を支えられながら、1歩ずつ手探りで前進しているうりずんです。

●6月のご利用状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	延べ4名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	延べ0名
合計延べ人数	4名

●6月のご来所状況

見学者	21名
ボランティア	延べ1名
合計延べ人数	22名

●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	3名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	2名
合計人数	5名
契約準備中の方 区分A	0名
契約準備中の方 区分B	1名
契約準備中の方の合計人数	1名

* 登録ご利用者の年齢……5歳～15歳
* 契約段階のご利用者の年齢……3歳
(7月20日現在)

●詳しくはホームページ「うりずん」→「月の活動報告書」をご覧ください。



▲うりずんの新しいお友達：だいきくとひばり畑のナス

日本ホスピス在宅ケア研究会

シンポジウム「普通の暮らし、普通の生き方、普通の死」より
「目の前の困っている人のために」

ひぐらしのいえ代表 安西順子さん

7月13日、千葉で開かれた第16回日本ホスピス在宅ケア研究会に参加した。あるデイサービスを紹介する。

「ひぐらしのいえ」は、千葉県松戸市にある宅老所・デイサービス(定員18名)である。ただし、普通のデイサービスではない。現在、登録者は43人。その年齢は11歳から94歳。知的障がいのある子どもや重症の障がい児から、高次脳機能障害の人、人工呼吸器をつけた筋萎縮性側索硬化症の人、さらにはがん末期からHIV陽性の人まで、何でもありのデイサービスなのである。

どうしてここまでできるのだろう。代表で看護師の安西順子さんは、「ひぐらしのいえを始めるときに、どんな方から依頼があってもお断りしないスタンスでやろうと決めたのです」と言う。

*

2003年9月にオープンしたときには定員11人のデイサービス(通所介護)だった。やがて、障害児・者のデイサービス(基準該当)が始まったのは2006年1月。いろいろな人が利用するようになり、2007年6月には「ひぐらし荘」という高齢者障がい者の長期のお泊りができる施設も隣につくった。

ちなみに、HIV陽性の方は、これまで特別養護老人ホームはじめ100カ所以上もの事業所で断り続けられてきた。「感染症の人を受けて欲しい」という依頼がはいる、話をきいたところHIV陽性だった。今のところ感染の危険はないが、薬を飲み忘れると感染の危険が生ずる可能性があると言われた。当然のことだが、スタッフの中にも、こわい、不安だというイメージがあった。そこで、まずエイズという病気について知ろうということで、行政保健師、県などにもはいてもらい、事前に研修会を開き、スタッフで勉強して受け入れをはじめた。常勤看護師は安西さんただひとり、スタッフの大半は介護職である。また、がん末期の人を受けているが、人の死に直面したことがない若いスタッフもいる。受ける前に、どんな状態の人であるのか情報を得てスタッフと話し合う。必要があれば研修を行い、スタッフの了解のもとに受け入れる。そのプロセスは平坦なものではないが、断らないところがすごい。

*

目の前の困った人のことを考えて受け入れていくうちにこうな

った、とさりという安西さん。多くの人から頼りにされるひぐらしのいえに心から応援のエールを送りたい。我が日本、まだまだ捨てたものじゃないですね。



ひぐらしのいえ安西さんと高橋

わっどわ〜く

人工呼吸器をつけた子どもの
預かりサービスの構築

研究報告書の感想



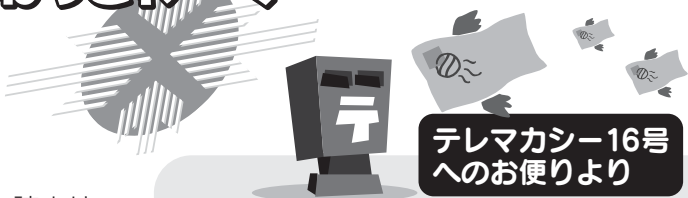
…(前略)… 後でゆっくり読ませて
いただこうと楽しみにして
いたところ、帰って来た主人
が、「はぁ〜。う〜ん。お〜。」
と、うなりながら読んでおり、
読み終えると「これは大変だ
よ！ だって…」と細かい内容
の話が始まり…。まだ見てな
いんだけど!! と奪い取るよう
に拝見させていただきました。

誌面に書かれていた大変なご苦勞はもちろん、プロジェ
クトのために、皆さんお仕事が終わってから遅くまで話
し合われたんだろうな。とか、資料もたくさん用意した
んだろうな。とか…。尊君のお母様の言葉も胸に突き刺
さるものがあり、涙が止まりませんでした。

…(中略)… 全体的にわかりやすく、これをまた、まとめる
のも大変だっただろうなと、ご苦勞がうかがえます。読
み終えて「ひばりに行かなくちゃ!!」と口走った主人
(えっ? 何であなたが? 何をしに?)と共にまた近々お邪
魔させていただきます f^_^; ありがとうございます。

茨城県 窪木律子さん (ひばりクリニックの初代看板娘です)

注) 研究報告書は残部がありませんが、右記のホーム
ページでご覧になれます。



テレマカシー16号
へのお便りより

「うりずんについて」

新規事業の取り組みに圧倒されました。
「制度は人のためにある」という言葉をしみじみ眺め
ておりました。医療の基本を忘れ「医療崩壊」と叫ぶ昨
今の風潮の中で、「やるしかありません」という言葉は
私に大いなる元気を与えてくださいました。またのご
報告を楽しみにしております。

茨城県立中央病院 茨城県地域がんセンター
永井秀雄さん

ひばりクリニック
ホームページ開設のお知らせ

●このたび、ひばりクリニックではホームページが完
成いたしました。当院の理念や、外来診療や在宅医療
のご案内、そして新たに始まった「うりずん」の実績がご覧にな
れます。休診のお知らせもこの
ホームページで行います。うり
ずんや高橋のブログもあります。
ぜひご覧ください。

●ひばりクリニックホームページ
<http://hibari-clinic.com/>



♥テレマカシー発送用に切手をお送りくださいまし
た皆さん、ありがとうございました。

「ひばりクリニック」のご案内

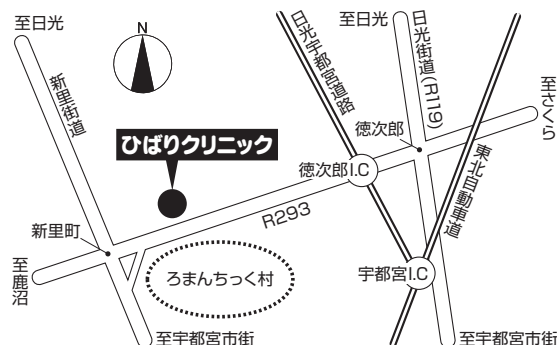
● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休 診)	訪問	訪問	(休 診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、
ログハウス風の小さな診療所です。



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
U R L <http://hibari-clinic.com/>

この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域と一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。